

防衛費倍増を許す風潮に歯止めを

小惑星探査機「はやぶさ」の偉業に感動

JAXA名誉教授 川口淳一郎先生が講演

日本の将来にエールを送る

7月22日、第46回定期総会を4年ぶりに対面で長崎市のホテルニューオーグスタで行いました。総会議事・記念講演はWEBを併用しました。

グループ保険を制度強化した保険医厚生会発足



総会議事では、櫻川常任理事が司会を務め、2022年度に逝去された会員に黙祷を捧げたあと、山下紀夫先生（医科・愛野記念病院）を議長に選出しました。

冒頭、本田会長が「最近、防衛費の推移を調べたが、防衛費は45年以上も対GDP1%枠内に止

まっていたが、それがなんと2倍になった。ウクライナの影に隠れて日本は危険な状態だ。平和の希求を第一に活動を進めたい」と、力強くあいさつしました。

議事では、浦副会長が保険証廃止中止を求める活動のほか、改定が繰り返されたコロナ特例点数や電気・物価高騰へ対応した2022年度の活動を報告し、決算報告を黒木副会長、監査報告を山崎監事が行いました。続いて、黒木副会長が23年度活動方針案について、医療DXが弱者切り捨てとならないよう活動する



川口淳一郎先生

最後に、診療報酬の引き上げ等、14項目からなる決議案を塩塚副会長が提案し、「防衛費増はアメリカの要求によることを明

このほか、社会保障費を切り捨て、防衛費を増やす政策には断固反対し、6協会による保険医厚生会の活動を充実させること、法人化が協会にもたらす恩恵やデメリットについて議論を開始すること、を柱とする活動方針を提案しました。

討論では、フロアから「保険証の廃止は医療界にとって大きな出来事だ。このことが診療や保険審査・指導の場でのどのような影響を及ぼすのか」との意見が出され、執行部から「現時点では保険審査等への影響は考えられないが、保険証の廃止は国民にとって影響が大きい。デジタル化は必要ないことだが国民・医療機関に過度な負担を強いる施策に反対する」と説明しました。

懇親会（下）で挨拶する西岡秀子氏（国民左）、山田勝彦氏（立憲・右下）、田村貴昭氏（共産・左下）



記したほうがわかりやすい」との意見が出され、修正は執行部一任の上、承認されました。提案された議案は、すべて採択されました。

「はやぶさ」感動の地球帰還がよみがえる

記念講演は、JAXA名誉教授の川口淳一郎先生を講師に会場に73人、WEB64人が参加しました。小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」は地球の引力圏外の天体からサンプル採集して、地球に帰還した壮大なミッションでそのリーダーが川口先生です。先生は「日本人は新しいことへの挑戦を躊躇する。前例を追っていい成果は生まれません。やれる理由をみつけて挑戦しないかぎり成果は得られない」と述べ、米ソ大國



の追従では成果を得られないことから、偉業の裏には、大國との技術力や国家予算の差への反発心と、独自路線を切り開こうとした研究者たちの執念がありました。結局NASAも「はやぶさ」から遅れること13年、サンプルリターンを目指したことから、宇宙開発から遅れていた日本の努力が実ったことを紹介しました。

次に、京セラの稲盛和夫氏の『全ては心からはじまる、心におわる』を引用しながら、「JAXAの先輩には変人が多い」と笑いながら語られ、「皮肉をよく言われた。若い時はよくわからなかったが、その教えは『無知の知を知れ』だった。本当の力は、現場で先輩から技術を盗んでこそ実力がつく」と語りながら、「不

静かに賑わう久しぶりの懇親会と写真展

懇親会には会員・家族・来賓などが参加し、夏の一夜を楽しみました。西岡秀子衆議院議員（国民）・山田勝彦衆議院議員（立憲）・田村貴昭衆議院議員（共産）があいさつに立ち、医療情勢について語りました。最後に豪華景品が当たる福引きを行い、番号が読み上げられるたびに歓声が上がりました。ロビーには第21回写真コンテストの入選作品が展示され、平和をテーマに応募された力作が参加者を引きつけました。

